

環境就職・進路相談会

相談会実施報告書

CONTENTS

序にかえて

「環境」人材のネットワークを目指して
.....2

報告・評価

・シンポジウム 議事録
「企業の環境部って何？」.....4

実施報告 アンケート集計結果
.....14
アンケート集計結果「シンポジウム」
アンケート集計結果「相談会」

次回予告



2003.12.13

エコ・リーグ

www.eco-2000.net

環境と 就職を 考える。

「環境」人材のネットワークを 目指して

序にかえて エコ・リーグ2003年度副代表理事
小清水 宏如

環境意識の高まりにともない、就職や進路を考える上で「環境」関係の仕事に就きたいという希望を抱いて就職活動をしている学生が多く見られるようになってきた。

一言に環境と言っても、「廃棄物・リサイクル」から「自然保護」「環境教育」「土壌汚染ビジネス」等のテーマ性での捉え方と「研究」「コンサルティング」「政策立案」「製品開発」等の職務性での捉え方があり、その希望は多岐にわたっている。

私が就職活動をしていた1996年(平成8年)には、まだ環境に直結する仕事というのは、行政の環境担当やNGO職員、環境関連のベンチャーくらいしかなく、企業の環境部がちょうど整備されてきた頃でもあり、環境事業をしている会社もそう多くはなく、また、一般の民間企業においても環境の仕事にすぐにつけるという状況ではなかった。

しかし、ISO14001や環境法規制の整備、環境ブームによってさまざまな就職口が増え、今やさまざまな切り口から環境保全につながる仕事が格段に増えたと感じている。

この環境就職相談会には大きな意義が2点あると私は考えている。

第一に、環境関係の仕事をしている社会人と実際に話をする中で、就職観や仕事の実態などを話してもらい、今後、自分がどんな仕事をしていくのか、そのためにはどんな考えで就職活動をして、社会人としてどうあるべきかを考える場。

巷では就職セミナーということで人事の採用担当者が出てくるセミナーばかりが目立っている。しかしながら、実際に仕事をしている社会人の話をきく機会はあまりない。しかも、それが環境関係ならばなおさらである。

「環境」というと、とかくいいイメージだけが先行しがちであるが、「仕事」の実態を知ってもらおうということにこの相談会の意義があると考えている。環境関連の仕事という、いいイメージ(コンサルとかISOとか)をもっているが、実際には必ずしもそうでない現実もあわせて知ってほしいと考えている。また、環境に関心があるだけでは限界があること、環境関連の仕事に就くには、どんな環境問題に関心があるのか?ということ踏まえつつ、

当日タイムテーブル

第一部 シンポジウム「環境部ってなに？！」

1000	参加者受付開始
1030	主催団体挨拶 / 注意事項
1035	第一部 シンポジウム「環境部ってなに？！」
1155	終了

第二部 環境就職・進路相談会

1230	参加者受付開始
1300	第二部の注意事項
1310	第二部 環境就職進路相談会
1700	終了

自分のどんな能力をどのような種類の環境問題に対して展開できるのかをまず考えること、環境関連の仕事には経験が必要ですぐには就けない現実もあることをそれぞれ理解してほしいとも考えている。

さらに付言すれば、環境関連の仕事は何も「環境」の付く会社に就職すればできるのではないので、仕事ベースで選んでほしいと思っている。まさに就「職」活動なのだから……。

まとめていえば、環境保全に関わるにはいろいろな形態があり、どんな形であっても関われることを理解してほしい。私のように、自分の仕事とは離れて環境就職相談会のような草の根のNPO活動に関わることもひとつの進路であると思う。

第二に、環境保全と仕事をつなげて人生の糧にしていきたいというマインドを持った人達がさまざまな業界・業種に進んでいくことで、将来的に職場において環境と結び付けた仕事をしていくムーブメントを起す可能性を秘めているということである。エコ・リーグ界隈で活動していたメンバーもさまざま

な業界に散っており、最近であると、受注側の担当者として、発注先の担当者として違う組織にいながら、同じ仕事をしてやっている例も見られるようになってきた。特に学生時代に環境活動をやってきたメンバーには将来を見据えて、現在の環境活動の位置づけや意義を改めて考えてもらいたいと強く願う次第である。

実は、この相談会に参加しているいろんな話をきいた学生が就職することができ、その就職先が、環境関連の仕事であったとしたら、「今度はあなたがカウンセラーとして話に来てください」、という呼びかけをしている。こういったつながりが「ネットワーク」になり、これはすぐには達成されないが、やがて将来何か大きな動きがあったときにはひとつのムーブメントを作れるのではないかと期待がある。

今後、このような学生と社会人をつなげる企画を続けていくことで、ネットワークが徐々に広がり、表向きは別々に見えるけれども、竹の子のように根っこで繋がっているというものがなにか出来たときになってはじめて、この企画の最終的な成果が出たといえるのではないかと。

シンポジウム 講演録

「企業の環境部って何？」

環境問題に関心があり、環境部署で仕事をしたいと思っている学生が年々増えている。果たして環境部の仕事にはどんなものがあり、実態はどうなっているのか？どの様な能力が必要とされているのか？それらの疑問について実務者の日常業務を学び、環境の仕事の実際を理解してもらう。

パネラー

栗田 宏文 氏

株式会社損害保険ジャパン コーポレートコミュニケーション企画部CSR・環境推進室 課長

西堤 徹 氏

トヨタ自動車株式会社 環境部 企画グループ 担当部長

迫 哲郎 氏

日本アイ・ピー・エム株式会社 本社、環境 プログラムマネージャー

ファシリテーター

小林 功英

実行委員長 / エコ・リーグ(全国青年環境連盟)理事

総合司会 それでは、第一部「企業の環境部って何?!」を始めたいと思います。本日はお越し頂きましたパネラーの方々をご紹介します。株式会社損害保険ジャパン コーポレートコミュニケーション企画部CSR・環境推進室 栗田宏文様、トヨタ自動車株式会社 環境部 西堤 徹様、日本アイ・ピー・エム株式会社 本社、環境 迫 哲郎様です。本日はよろしくお願ひします。ファシリテーターはエコ・リーグ理事の小林功英です。

それではここからはファシリテーターの小林にマイクを渡したいと思います。よろしくお願ひします。

小林 ありがとうございます。実は私も社会人でございまして、大学関係の組織に所属しております。就職に関して言えば、「採用活動の早期化をやめてください」って企業に言うところなのですが、一方で、個人的にこういう早期化を促すような企画をしまして、パレるとまずいのですが、私も転職先を探すという意味でも、学生と同じ立場で話を伺えたらと思います。

では、まず1つ会場の皆さんに質問をしますので、どち

らかに手を挙げてください。「今、私は猛烈に環境の仕事をしたい」と「え・・・別に。今日は無料だから来ました」という人の二択。はい、「猛烈」の人・・・

(大勢)

結構いますね。「え・・・別に」の人・・・。

(1人くらい)

ということで、熱心な人が多いみたいです。

それでは、さっそくプレゼンテーションに移りたいと思います。まず、損保ジャパンの栗田さんからお願いします。

損保ジャパンの環境部の概要

栗田氏(以下、敬称略) おはようございます。損害保険ジャパンの栗田と申します。頂いた時間が10分ということなので、全体像をお話するには時間が足りないのですが、3点に絞って話をさせていただきたいと思います。

1点目は、自己紹介・会社紹介、2点目は現在私が所属しています、「環境推進室」が実際どんな仕事をしているのか、最後に今後、保険会社・金融機関として環境問題にどういう風に取り組んでいくのか、という方向性を簡単にご紹介したいと思います。

まず、自己紹介の前に会社紹介ですが、「損害保険ジャパン」という会社、聞いたことないな、という方は多分いらっしゃると思います。2002年の7月に安田火災と日産火災が合併しまして、損害保険ジャパンという新し

当日参加人数

・ 294名

(事前申込202名)



ちょうど11年前になりますが、当時「地球サミット」がリオデジャネイロで開催されまして、そこに当時安田火災の社長であった後藤康男が経済団体連合会の一員として参加しまして、これからの企業は環境問題に取り組まなければダメだ、ということで、帰国してすぐにトップダウンでできたのが地球環境室です。当時は、国内金融機関で初めて環境部門ができたということで結構話題になっておりました。その後、名前がいくつか変遷していくのですが、最初は地球を守っていかなければならない、保険会社としてどんなことができるのかということを検討していたのですが、だんだん求められるものが社会的にも変わって、環境だけじゃなくて社会貢献まで求められるようになってきました。今年の12月に組

い会社ことができました。去年の12月に大成火災が合流し、結果的に3社が合併してできあがった損害保険会社です。規模的に言うと、リーディング・カンパニーの東京海上さんの次に収入保険料が多い会社といえます。

自己紹介ですが、1961年生まれ、今年で42歳です。大学を卒業して、19年目になります。社歴を簡単に紹介すると、1985年に大学を卒業して、日産火災に入社いたしました。入社してすぐに岩手支店の営業課に配属になり、まさに保険営業をやっておりました。損害保険は代理店を経由して保険を売っていくのですが、自動車ディーラー、金融機関、整備工場とかガソリンスタンドを担当して、とにかく四国4県に匹敵する大きさの岩手県の中で、毎日車を運転していたのが当時の印象です。岩手支店に5年ほどいて、その後は営業企画や業務部門を渡り歩きまして、1996年にこれも合併した会社なのですが、「Royal & Sun Alliance Insurance」というイギリスに本社を置く保健会社のアメリカ法人である「Royal USA」という保険会社に2年間出向して、自動車保険の保険契約の引き受け方法の研究をしておりました。

1998年に日本に戻り、その2年間を活かせるということで、自動車業務部の商品開発グループで自動車保険の商品開発をやっていました。その後、2002年、合併によって社名が変わって、「職域団体開発部 職域IT推進グループ」というやたら長い部署に配属になり、要はインターネットで自動車保険をいかにして売るか、を検討する部署にいました。今年の6月までそこにおりまして、ITやeビジネスに関わっていたのですが、この7月に今の部署に異動してまいりました。ですから、はっきり申し上げて、環境のプロというわけではございません。この7月から企業として環境問題を見ている、取り組んでいる、仕事をしていることが私の簡単な概略でございます。

次に、私は文系か理系かですが、商学部ですので文系です。数学は未だに苦手な分野で困っているのですが・・・

さて、「CSR・環境推進室」の概要ですが、少し歴史を紹介します。今の環境部署ができたのが1992年。

織名を変えたことは先ほど申し上げましたが、CSR、これは後で説明しますが、要は環境だけじゃないんだ、と。企業としてやっていくことを考えると、様々な分野で貢献していかなければならないので、環境部署といっても、その役割が順次変わってきている、というのが本社環境部を取り巻く状況だと思います。

それで、人員は現在は総合職が12名、業務職が3名、スタッフが5名の総勢20名の体制です。どんなことをやっているかといいますと、大きく2つの柱があります。1つが、環境問題および社外貢献活動に対する取り組み推進。環境問題については社内・社外、2つあるかと思えます。社内に対しては、保険会社はメーカーさんのように何か目に見えるものを作っていませんので、商売は紙のやり取りが基本です。ですから、紙の使用量は大変なものです。従って省資源・省エネルギーを果たすことによって、事業費・コスト削減を果たしていくことができるわけです。社外においても、「環境リスク」が最近増えています。土壌汚染の問題とか、リサイクル・廃棄物に関する「環境リスク」ですね、このリスクに対するニーズ、保険で手当てをしようというニーズが結構企業さんの中でも出てきています。そこに対応する商品の情報発信、といったことが1つ目の業務内容ですね。

「CSOラーニング制度」

2つ目は最後のポイントでお話しますが、企業の社会的責任、つまりCSRを果たすための総合窓口業務です。当社は企業財団として、損保ジャパン環境財団、損保ジャパン美術財団、損保ジャパン記念財団の3つの財団を持っています。ここを通じて社会貢献活動を推進しています。環境財団で言えば、大学生の皆さんの人材育成支援をメインに考えていまして、名前を聞いたことがある方もいらっしゃるかと思います。「CSOラーニング制度」があります。要は学生の皆さん、環境問題に興味を持っている皆さんを環境NPOに派遣するインターンシップですね、バイト料を損保ジャパンから払う、というもので

シンポジウム

す。今年でもう3年目になりますが、年々応募者が殺到して学生の皆さんからは好評を得ています。

それから、美術財団ですが、新宿の本社ビル42階に「損保ジャパン東郷青児美術館」があります。会社のビルの中に、美術館を持っているのは多分当社だけじゃないかなと思うのですが、そこを通じて、文化活動の支援をやっていきます。ちなみに、明日までゴッホ展をやっています。非常に価値の高い展覧会ですので、興味のある方はぜひご覧下さい。

それから記念財団は、NPO団体の助成支援等を行っています。

その窓口業務を私のいる「環境推進室」で更に本体としてサポートしています。

さて、「ある一日」ということでスケジュールを作ってみました。大体出社は8時半前に出てきます。そして、衛星放送を見るのですが、社内向けの衛星放送が8時45分から9時までの15分間、週三回火・木・金にありまして、例えば新商品が来週から出ますとか、新しい事務処理がこういう風になりますとか通達文書とともに社内に徹底する仕組みがあり、それをだいたい見えています。9時以降午前中は、メールを打ったり、電話対応、室内ミーティングで過ごしまして、午後は外に出ることが多いです。社外環境関連ワーキンググループでは、「日本経済団体連合会」が主催する環境関連ワーキンググループへ参加させて頂いています。それから環境省訪問ということで、国がどのような方向で環境に取り組んでいくのか、そこに企業がどう絡んでいけばいいかを模索するための情報収集として、定期ではないのですが、極力時間があれば人脈を作ることをやっています。

それから、3つある財団との橋渡し業務であるミー

ティングも頻繁に行われています。最近ではNPOや自治体で、頻繁ではないのですが、企業ではどんな環境問題に取り組んでいるのか、というご質問を良く受けまして、1時間くらい話をしてくれませんか、という依頼があります。これは夜が多くて、6時以降に出かけて行って、話を一杯ご馳走になって、9時くらいには帰ってくる、というのが平均的な一日です。

CSRとは

最後に、当社が目指す方向、今後取り組むべき課題を説明します。組織の名前が変わりました。6月までは単に「社会環境室」だったんですが、12月、先週の月曜日から、「CSR・環境推進室」になりました。CSRとは何かですが、「Corporate Social Responsibility」で、企業が企業市民としていかに社会的責任を果たしているかが最近、企業に求められる項目の1つです。分かりやすく説明すると、今までは儲かっていればよかった、と。売れる商品を作っていればよかった。たとえ社内で不祥事があるが、社員が使い込みをしようが、法違反があろうが、儲かっていれば勝ちだと。そういう意識がある時代があったと思うのですが、もうそれだけじゃだめだ、と。それだけじゃなくて、当然環境に配慮する、50年後、100年後に自分達の会社を残すために何をしなければならぬか。そうすると、地球環境だけではなく、広い意味での環境問題に取り組んでいかなければならない。人権問題や法令遵守も含めて、真摯に考えていく姿勢が必要です。

それと、一企業市民として社会に果たしていかなければならない責任ということで、「環境」・「経済」・「社会」といった3つの項目があります。今までは、「経済」だけで



よかったのですが、これからは「環境」・「社会」にも目を向けていかなければ、企業として認められなくなってきている時代になっています。この3つを「トリプルボトムライン」という言い方もしますが、持続可能な企業を目指すために最低限必要な視点として掲げています。これを当社としても目指そう、と。名前を変えたのもその一例ですが、私が所属する環境推進室では、「環境」だけじゃなくて、CSRにも今後も積極的に取り組んでいくことが今後の課題と考えております。以上です。

小林 ちなみに、「CSOラーニング制度」をご存知の学生さんはいらっしゃいますか？

(ちらほら)

あ、ちらほらと……。この機会に是非、たくさん応募してもらえればいいと思います。ありがとうございます。それでは、トヨタ自動車の西堤さんをお願いします。

トヨタ自動車の環境部の概要

西堤 おはようございます。トヨタ自動車の環境部の西堤と申します。本日はこんなにたくさん集まっていたいただきまして、非常に喜んでおります。

それでは、まず私の自己紹介からさせていただきます。1951年に生まれまして、1970年、今から30年くらい前に大学を卒業しまして、その当時はまだ「トヨタ自動車工業」という社名、それと「トヨタ自動車販売」もあったのですが、トヨタ自動車工業の方、モノを作るほうに入社して、「調査部」に配属され、経済予測とか経済分析をやっていました。大学でたまたまそういう勉強していましたので……。1978年から80年の2年間、「日本エネルギー経済研究所」へ出向しました。第2次オイルショックが起きた前後で、石油価格が1バーレル100ドルになるかという時代で、エネルギー需給見通しを勉強しました。今の環境部と関係があるのは、その2年間くらいかなと思います。

1980年に会社に戻りましたが、調査部が総合企画部に変更しまして、同じような経済の仕事をやりました。1991年にトヨタ子会社の国際経済研究所に出向して、そこでも経済分析をやりました。1998年に環境部ができたときに異動しまして、6年環境のことをやっています。その他に、年のせいもありまして、色々なところから頼まれてまして、日本経済団体連合会とか日本自動車工業会、東京都の委員をさせていただいています。

帰宅時間は23時

それから最近のスケジュール、一日どんなことをやっているかですが、先ほど栗田さんは8時半に出勤ということですが、なかなか年を取ると早く起きられず、私は9時15分くらいに出勤しています。それから1、2時間はメールとか問い合わせとか依頼がありまして、その対応をやる。その後、外国のお客さんとか大学の先生とか、学生さんも報告書について聞きたいといった、来客へのプレゼンをしています。その後昼食をとりまして、社外会議に出席するために移動、それから戻って今度は社内会議が結構あります。会議が多すぎるのは問題かなと思い

ますが……。自分でやらなければならない仕事は大体17時以降になりまして、決裁とか上にあげる報告書を作ったりしまして、帰るのは23時くらいですか、それが1日の過ごし方です。また、トヨタ自動車は豊田市と東京の両方に本社があり、豊田市の方にも環境部の職場がありまして、1週間のうちの1日はそちらに出張しています。

次にトヨタ自動車の環境部がどんなところかと申しますと、設立は1998年1月で、今年で6年。人員は約70名いまして、東京で25名、本社で45名です。設立当時は20人くらいからスタートしまして、だんだん増えて70名になった、と。

それから業務内容ですが、環境部は実際に自分達がプリウスなど製品を開発するんじゃないで、取りまとめ部署です。環境諸課題の対応方針の取りまとめ調整をやっています。それから社内でのトヨタ環境委員会の事務局をやっています。各委員会については後ほど説明します。「トヨタ環境委員会」は全体の委員会です。その下に「生産環境委員会」、「製品環境委員会」、「リサイクル委員会」。それから環境の政策動向の分析とか官庁や日本経団連に行つて渉外活動をやっています。それから環境マネジメントの推進、自動車リサイクル法対応、環境会計、環境報告書、環境教育などを色々やっています。委員会の組織図ですが、「トヨタ環境委員会」は社長の直轄部門になっているので、環境委員会の委員長は社長です。その下に製品、生産、リサイクルの3つの委員会があり、副社長、専務などトップの担当になります。その下に、燃費・クリーンエネルギーなど分科会・部会がある構成で、ここを中心に方針の取り決めをしています。

自動車リサイクル法の対応

最後に今後の取り組みで、自動車リサイクル法が来年の終わりが再来年の初めに実施され、その準備に結構時間がかかるので重点的に取り組んでいます。それから環境報告書のサステナビリティリポート化、つまりCSR報告書化で、先ほど栗田さんからもありましたが、経済的側面と環境的側面に加え、社会的側面をやらないとこれから生きていけないと言われていまして、我々もやっつけよう。それからグローバル化ですね、連結小会社の環境マネジメントの充実。色々な議論でグローバル化が言われていますので、環境部は色々考慮していかなければならないな、と。以上簡単ですが、説明を終わります。

小林 自動車リサイクル法ができることを知っていた人はどのくらいいますか。

(ちらほら)

……。あと、リサイクル法はいくつかありますが、勉強されるといいと思います。それでは、日本IBMの迫さん、よろしくをお願いします。

日本アイ・ビー・エムの環境部の概要

迫 日本IBMの迫です。よろしくをお願いします。私は第1次オイルショック後の1974年に大学に入り

環境工学を専攻しました。2年ほど他の会社を経験した後、1980年に施設技術エンジニアとして日本IBMに入社しました。工場の基幹設備の導入や更新、また省エネルギーに取り組みました。そして、1993年には分社化の動きがございまして、野洲事業所内に出来た関連会社に出向し、過去培った環境施設の技術を用いて外部ビジネスを立ち上げる仕事に3年ほど従事しました。その後2年ほどは事業所内の施設企画の業務に携わり、化学物質の漏洩対策等を行いました。1999年にIBMに帰任し翌日から約4週間IBMの環境のコーポレート・オーディットを経験いたしました。その後はISO14001の規格に基づく環境管理等に携わりまして今年の9月に本社、環境に異動になりました。

次に、IBMの環境管理について説明します。環境ポリシーや環境管理規定類は、米国の環境部門が策定します。各国の事業所は、その要求事項と地域の法律や条例などの要求事項を比較し厳しい方の基準を遵守する考え方で環境の管理を行っております。日本IBM環境委員会の下に、「エコデザイン推進委員会」や「再資源化専門委員会」など設けて個別の問題に取り組んでいます。また、主要な開発や営業事業所では、それぞれの環境管理委員会で取り組んでいます。IBMの環境管理規定(Corporate Instruction)で要求事項、また環境基準(Environmental Practice)で具体的な排出の基準値などが決められています。基準値の緩い国もありますが、最低でもこれは守らなければならないものをコーポレーションで作る各事業所はこれを守ることで共通で一貫した透明性のある環境管理をしています。

最近、循環型社会を作るため、廃棄物とリサイクルに関連した法律がたくさん出てきました。パソコンは、改正リサイクル法に基づき、メーカーで回収する責任があるということでリサイクルに取り組んでいます。その他、省エネルギーの法律とか、環境教育に関する法律とか、持続可能な社会を作るために行政で種々の法律を制定し取り組みを促してきました。

私の業務ですが、関連会社への環境要求事項の展開と有害廃棄物の委託先管理等が主なものです。赴任してまだ3ヶ月で典型的な1日のスケジュールはありませんので、異動後携わりました仕事をご紹介します。9月、アメリカで開催されたIBMエネルギーシンポジウムで日本のエネルギー状況と日本IBMの省エネルギーの取り組みの発表をしました。世界環境センター主催の「国際環境フォーラム」が東京であり、発表のプロジェクトの操作係をしました。10月には、関連会社でIBMの環境管理の講演をしました。また、岩手県盛岡市でIBMの環境管理シンポジウムがありましたが、分科会の会場をセットアップしたり資料を配布したり夜中まで裏方の作業をしました。11月は、環境経営格付け調査のアンケートやインタビューに答えています。また、有害廃棄物は現地に行き、定期的きちんとした管理がなされているかチェックしなさいという要求項目がありますので現地訪問して環境調査をしました。また、12月には「ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA)」のリサイクル小委

員会メンバーになり業界の団体に参加しています。先ほどCSRのお話でしたが、IBMの社会的責任への取り組みを紹介するCRRC(Corporate Responsibility Report)という報告書を今年から発行しましたが、自分の業務に関する部分の和訳や日本の活動を紹介する記事を書いています。

対人折衝能力が必要

「必要とされるスキル」ですが、必要な情報を得て発信すること。また、現場や実態を理解した上で法律を理解する。それに基づいて、組織を動かすスキルが必要です。環境問題は、1つの企業だけで解決する問題ではありません。社内でも色々な部署と折衝する必要がありますし、社外でも色々な方と交渉する必要があります。そのため、語学とか対人折衝能力が必要だと思います。

これから取り組むべき課題は、IBMは「e-businessでe-環境」と称して、ビジネス効率の改善に取り組んでいますが、そのIT技術を自分の業務の中により取り込みたいと思います。また、「製品の品質は廃棄時に問われる」ので、今後は製品に含まれる化学物質の管理とか、使用済み製品のリサイクルの効率的なやり方を模索したいと思っています。

また、営業やサービスを含めた全社員の啓蒙を図り、産業界、大学、行政、民間の方を含め連携する取り組みをしなければと考えております。IBMは30年以上前から環境ポリシーを打ち出しており、環境のリーダーシップを取ることを約束しています。これは、法規制が無くてもそこにリスクがあるなら積極的に対応して改善していくことは、倫理的にも正しく、また同時に経済的合理性があるという哲学の下に環境に取り組んでいます。

「環境部の仕事とは何か」を一言で申しますと、いかにして環境でリーダーシップをとり、リスクを回避することか、と考えています。どうもご清聴ありがとうございました。

小林 ありがとうございました。また最後に質問なのですが、英語が重要だという話がでてきましたが、「英語って苦手なんだけど」という方どのくらいいらっしゃいますか？

(たくさん)

私も含めてなのですが・・・一緒に勉強しましょう。それでは、パネルディスカッションの方に入りたいと思います。参加者から事前に受け取りました質問に合わせて、三方に質問したいわけですが、まず初めに、皆様は他の部署から環境部署に異動されてきましたが、ご自身で望まれて環境部に入られたかを伺いたと思います。まず、環境部に来たかったという方は、いらっしゃいますか？

・・・あ、迫さん。では、望んでいないという方、お二人。ということで、意外な、というか、望まないで環境に入ってしまったということですが、何かエピソードがあれば。西堤 私の場合は環境部そのものが無かったのです。昔の上司がたまたま環境部長を拝命し、助けてくれないか、一緒にやろうということで、極めて人間的なつながりで、それではお願いします、と。だから、そのときは環境どう

のこうのは意識していませんでしたが、結果として環境をやって非常に良かったと思っています。

栗田 私の場合は、7月に環境部署に配属になったのですが、出身の日産火災には環境部署がなかったのですね。損保ジャパンになって、安田火災から引き続き環境部署が残ったのですが、今年の6月まで環境部署があることすら私は知りませんでした。ですから、7月から今の部署に来て、180度視野が変わりまして、まだまだブ



ラッシュアップされきれていない、意識が替わりつつあるということです。決して、環境部門が嫌だという風に思っていませんでした。環境部署の存在すら知らなかったわけですから。とにかく7月、初めて行って見たら何かとても忙しい部署だな、というのが現在の印象です。

小林 迫さんは・・・？

迫 環境の仕事を希望して本社へ異動となりましたが、赴任して3ヶ月間の経験からすると、本社の環境の仕事はイベント屋的なところが強いと感じています。工場の場合、現場がありそれに対して地道な改善をしていくわけですが、今は現場がないことで戸惑っています。

小林 ちなみに、環境部に入る前と入った後で、どうイメージが変わったか、というか、何のギャップが一番大きかったかを伺いたと思います。

西堤 私は環境部がなかったので、イメージのギャップは分からないのですが、自動車はわりと昔から排ガス問題があり、環境には関心が高かったのも、それまで全くやっていなかったわけではありません。色々な部門でやっていた仕事を、環境部を作って「横」で部門をまたいでみよう、ということで。そういう意味では、それらしい体制になったという感じかな、と。

環境部は他の部署からどう見られてる？

小林 他の部署からはどういう目で見られていますか？
西堤 設立当初は、例えば環境会計で経理にこういうのを計算してくれとか、環境報告書を出さなきゃならんと

いうことで、関係各部にこういう内容で書いてくれ、とか色々なお願いに行きまして、余計な仕事を持ってきたとか、かなり白い目で見られましたね。報告書が出て、最近では評判が良くなったのでだいぶイメージが変わってきましたけど、やっぱりプラスアルファですかね、今やっている仕事に更に何かを付け加えるということが一般的に受け取られていることですね。

栗田 環境部署に来る前までは、まさに本業の保険商品の営業推進をメインにした仕事だったのですが、環境部署はすぐに直接本業の儲けに結び付くものではないのですね。かといって、仕事が営利に結び付いていないかということではなくて、将来的には結び付いていることが最近ようやく分かってきた。それと、社内的にどういう風に見られているのですが、残念ながら1万5000人社員がいますが、環境部署の存在すら知らない社員がまだまだいます。他部署と仕事をして環境推進室って何やっているの、と同じ社員からも聞かれますし、関連部署との仕事が多いのですが、環境推進室が何でそこまで出てくるの、と邪魔者扱いされることもあります。社内では残念ながら、まだまだ認知度は低いのが実情だと思いますね。

迫 先ほど申し上げましたように、イベント屋というところはありますが、今は「環境経営」という言葉もありますように、経営に直接関わる所で重要性は認識しています。営業のサポートとかコンサルティングで稼げればいいのですが、なかなかお金には結び付きません。稼がない部署だと言われると肩身が狭いのですが、大きな意味で企業の根幹に関わっていると理解しております。

環境部署に1年目から配属されるか？

小林 これらを踏まえて、皆様の環境部署に1年目から配属になった実績があるかを聞きたいと思います。実績がある方。

(なし)

実績がない方は・・・

(3人)

ということで、1年目から配属になる、という実績はないということですが、何かコメントがあればお願いします。

西堤 環境の仕事は幅広い知識が必要ですね。実際、自動車会社では、ハイブリッドとか燃料電池の開発は、実際には技術部がやっておりまして、環境部は取りまとめ部署です。そういう意味では、社内の状況を知っていないと務まりづらいので、1年目からいきなり来てもらっても、実際には役に立てないことがあります。各部署で色々なことを身に付けてから来てもらえればいいかなと。それから、環境部は今のところお金を使う部門ですので、社内では新入社員の配属先としての優先順位は低いと思います。人事でも新入社員をあげるほどの稼ぎができるまで、ちょっと

待て、と。実績がないのは、そういう要因もあるかと思えます。

小林 部署の最低年齢は？

西堤 27, 8くらいですね。

栗田 損保ジャパンでも総合職の社員が、入社1年目から環境部署に配属された実績はこの10年間で1度もありません。かといって、入社1年目だから環境部署に来れないのかというと、そういう規定があるわけではないのですが・・・環境部署は社内の色々なところを知っていなければならないんですね。当社の場合も、環境関連の保険を作ろうと思ったら、実際に作る部署である商品開発部と話をして環境の情報を提供しなければならぬ。もしくは、社会貢献活動をするなら、人事部とか

総務部と話をしなければならぬ。もしかしたら、海外の案件であれば、外人とも話をしなければならぬ。皆さん、そういう仕事、大学を卒業してすぐにできますか。できないですよ。私も19年いてもなかなかできない。12人総合職がいますが、皆で色々な部署を渡り歩いています。システムのスペシャリストや財務のスペシャリストだったり、損害調査を経験した人もいれば、10年以上営業をやってきた社員もいますし、私のように商品開発をやってきた人もいます。色々な社内の知識がないと環境部は務まらない。総合職の最低年齢は、32歳ですね。

迫 実は、私は、定年退職の方の仕事を引き継ぐということで来たのですが、簡単にスキルを引き継ぐことができるわけではないですし、工場での経験のある私ですが、まだどういう風に動いたらいいのか分からないのが現状です。新人の方では難しいと思います。

また、いきなり採用された方はいらっしゃらないですね。最低年齢は、私は48ですが、私より若い40歳台の方がお一人。後は50歳以上の年配の方々です。

環境部において必要なスキルとは

小林 ありがとうございます。次は、一番多かった質問ですが、環境部において必要な資格・知識・スキルを教えてください。

西堤 難しいですね。色々な考え方がありまして・・・会社の基本方針は、まずは一芸に秀でると、それから色々やる、と。あと環境に限らないのですが、語学ですね。日本の企業はグローバル化してますので、中国語でもドイツ語でも、日本語以外で話ができる方がいいのかな、と。それからパソコンができないと、全く情報が入ってこないシステムですので、企業で暮らしていけません。我々年寄りには暮らしづらい世の中です。後は幅広くやってい



ば、いつか役に立つなど考えていけばいいのではないのでしょうか。

栗田 多分、「これ」っていうのはないです。1つ言えば、社内横断的に仕事をしていくので、苦手で嫌いな分野があっては困ります。例えば、システムが苦手なんです、会計はよく分からないのですよ、という人が環境に来て困るんです。浅く広くで結構ですから、色々な知識を持っている人、ピンポイントの深い知識ははっきりいって必要ないかもしれません。浅く広く雑学で結構ですから、色々なことに興味を持てるマインドは必要じゃないかなと。

あと、英語はいわずもがなで環境部署に限らず、これからの企業に入るのであれば絶対に必要です。そんな上手に話せる必要はありません。大学を卒業しているのであれば、読める書けるで十分です。聞ける話せるは場数を踏んでいけば何とかできますから。決してきれいに発音する必要はありませんし、文法的にあっている英語を喋らなきゃいけないことはありません。とにかく、英語になじんだ方がよろしいかと思えますね。

嫌いな分野をなくしてください。環境以外の分野も興味を持ってください。

迫 付け加えるとしますと、語学は確かにコミュニケーションの基本ですが、色々な趣味を持つことが、コミュニケーションするときに話題を豊富にさせますし、専門的なこと以外のことも身に付けたいと思います。

小林 ありがとうございます。会場の皆さんに質問ですが、この中で文系・理系・それ以外で手をあげて欲しいのですが、専攻が文系である人はどのくらいいますか？

(ちらほら)

理系の方

(結構)

理系の方が多いですね。文系か理系か分からない人。

(ちょっと)

あ、いらっしゃる。それで、これに関連して、質問では学生時代の勉強が役に立っているかという事なのですが、ちょっと自分の勉強について、伺ってみたいと思います。西堤 学生の時から経済をやっている、環境部に行くまでは大学の勉強がそのまま仕事に結び付いた珍しいケースです。役に立っていたのですが、環境部に入ってから、直接役に立ったかなと言うと、ピタリとはこないですね。でも、大学では何となく社会常識を覚えた記憶があるので、いつかどこかで役に立つ。30年くらい勤めていますとそういうものかと。役に立たないといけないということではなく、いつかどこかで役に立つくらいの気持ちでいればいいのではないのでしょうか。

文系・理系は関係があるのか

小林 「文系なのですが、環境部に行けるのですか」という質問が多かったのですが、お2人の経歴を見れば、文系でも大丈夫だということですね。

西堤 環境部は理科系の方が多いのは事実ですね。70名くらいと言いましたが、女性の業務職の方を除くとだいたい60名なのですが、文系は20名くらいで、40名くらいは理系。理科系が多いことは事実ですね。

栗田 学生時代の勉強は一切関係ないです。私は学生時代にあまり勉強していなかったのですが、関連性は無いですね。損保ジャパンの場合は、逆に今の環境推進室12人は全員文系です。やっぱりモノを作っていないというのがありますが、理系がいないといっても全体の中では半分近く採用していますが、環境部署に來ている人間はたまたま文系ですね。

迫 学生時代は工学部で関数電卓を使っていたのですが、今はほとんど足し算引き算掛け算割り算の計算でこと足りるので、関数電卓の使い方が分からなくなっている状況です。まあ、大学の勉強はそんなものと思います。環境問題に限らず、世の中はどんどん変化しているわけで、昔習ったものがそのまま役に立つということはないと思います。だから、常に新しいもの、環境問題だったら動きがどんどんありますので、それを真剣に追っかけていくと、ちゃんと必要なスキルは得られる、そういう風に思っています。

小林 大学はあまり関係ないということで。続いてこれに関連しまして、参加者はあと1年間くらい大学時代があると思うのですが、勉強以外で大学時代に経験しておいた方がいいことがありましたら、お願いします。

西堤 企業に入ると、意外と自分の自由時間が取りにくくなります。だから、海外旅行に行ってみようとか思っても、やはり上司の顔色を見ながら気を使わなきゃいけない面もどうしても出てきてしまうので、学生のうちに時間を使ってできることをやっておく。

後は、環境ですから、色々なことに興味をもって、新聞も読んでもらうと。あとは、語学。英語ですね、時間のあるうちにやっておいたほうがいいです。ちなみに、弊社ではTOEICであるレベルの点数がないと係長以上にしてくれない。最近、厳しくなっています。その辺はできるときにしっかりやっておかれるといいかと。

栗田 やっぱり雑学だと思います。色々なことに興味を持っていただく。浅く広くでいいので、色々なことに興味を持つことが大切ですし、多分学生のうちしかできないと思うのですね。会社に入ってしまうと、ピンポイントでやらざるをえない。学生のうちなら広く浅く勉強できる時間もありますし、是非それは経験して欲しい。あとは、人脈。会社に入って、人脈を築こうとすると、どうしてもしがらみがあって偏ってしまう。商売敵の会社の人とはなかなか腹を割った関係になれないですし、今のうちに色々な方と知り合う経験を積んでもらった方がいいかなと思います。

迫 お二方が言われた通りだと思います。

小林 それでは、時間もあと20分ほどになりましたので、質疑応答を会場の方に聞きたいと思いますが……。

参加者 今後環境経営をやっていない取引先の中小企業とかとは取引を打ち切る可能性はありますか。

西堤 なかなか難しい質問ですが、やりすぎますと、かえって「優越的地位の乱用」というのにひっかかりますので……。弊社がお願いしているのは、できればISO14001の認証取得してください。それから、環境負荷物質で、禁止物質があります。例えば、欧州ですと、鉛ですとか。そういったものの管理をすることに注意してください、と。そういう基準の調達ガイドラインを出していただいて、それを守っていただけない方は、場合によってはご遠慮いただく。たとえコストが安くてもいいものを作ったとしても、です。

栗田 当社はモノを作っていないので、下請けと関係がないですから、今仰ったところでいうと、一切ないです。環境に意識していない企業とも取引していますし、保険を売って頂いている代理店さんにも、ISOの認証取得してくださいね、という指導もしていないし関係ないですね、当社の場合。

パネラー企業の環境報告書が見れる！

ホームページURL

損害保険ジャパン：<http://www.sompo-japan.co.jp/environment/index.html>

トヨタ自動車：http://www.toyota.co.jp/jp/community_care/index.html

日本アイ・ビー・エム：<http://www-6.ibm.com/jp/company/responsibility/>

迫 IBMの場合も同じです。ISO14001の取得の奨励はしておりますが、必ず取りなさいということは取引先には求めていません。ただ、納入するものの基準はありますので、それが満たされないと欧州等で売れないということになります。

小林 日経産業新聞から、日経環境経営度ランキングが発表されていまして、それによるとグリーン購入は凄く進んでいる、という発表は出ていますね。他に何かありますか。

利益に結び付かないと、環境はやらない？

参加者 先ほど、お話をいただいたことで伺いたいのですが、環境部の仕事が利益に結びついてと仰っていたのですが、例えば、利益に結び付かないけど、環境に貢献する仕事とか、利益がダウンする仕事をこれからすることを環境部ではできるのでしょうか。

西堤 なかなか難しい質問ですが・・・利益に実際に結びつくと言うのは、環境配慮型製品を作っているとか、調達で環境配慮しながらコストを引き下げていくような方向で業者さんをお願いしていると。環境部は、私の仕事から言いますと、環境報告書を出して、ちゃんと取り組んでいる状況を皆さんに知って頂きまして、いいモノを作っていたら買ってやろう、という消費者をたくさん増やして、結果として、環境配慮製品が増えるということで、貢献したいな、と。直接的ではないですが、環境というイメージを通じて貢献していく、というのが環境部かなと思っています。

栗田 非常に答えにくいご質問なのですが、仮にそれが社会貢献であったり、寄附活動であったりしても、明らかにこれは利益に結び付かない、と分かっている仕事があったとしたら、多分やらないでしょうね。でも、明らかに結び付かないかは分からないのですよ、始めるときには。ですから、冒頭の説明のとおり、CSRとして社会に対する企業の責任を果たすのが先で、儲けるのはその次だと考えていますから、まずはその土台を作るのが先だと思っ

ていますから、今の業務が即結び付くかと言われれば、それは分かりませんよ。ですから、目先だけ考えればそれは儲けに繋がるの、と社内でも聞かれます。あんたたちそんなことやって、俺達営業で稼いでいるのに金使っているだけだろう、という社員もたくさんいます。でも、それは長期的に見ると分からないし、長期的に見て最後に繁栄するような、株主に貢献できるような実績を残すために業務を行っているわけで。明らかに利益に結び付いていないと思ったら、やらないと思います。そういう事例はなかなか見つけられませんが。

迫 野洲工場でISO14001に基づく環境マネジメントシステムにより環境負荷の削減に取り組んだ経験から環境負荷削減効果と共に経費削減効果を把握することは非常に重要なことだと思います。このA4の1枚の紙と1円玉、どちらが重いと思いますか、という質問をしますと多くの方は、1円玉と言います。実はこの紙は、1枚4グラムします。1枚の購入費用は約1円、使用後の紙をリサイクルする場合でも1kgあたり約3円の費用がかかります。だから、紙の削減は、天然資源の保護と意外に大きな経費削減になりますので、経営に貢献していると思います。

小林 他にありますか。

京都議定書と企業

参加者 京都議定書が発効された場合に、具体的にどのような影響がありますか。

西堤 日本経団連でそういうことにも関係していますが、京都議定書が発効するかどうかは、ロシアの批准次第と言われていますが、自動車に関しましては、発効するかしないかに関わらず、地球温暖化問題はもう厳然としてあるわけですし、これは21世紀中かけて取り組まなければならない問題だと思いますね。だから、発効するかしないかに関わらず、企業にとっては取り組まざるを得ないということで、どこの企業も程度の差こそあれ、しっかり取り組む意識を持ってやっていると思います。

あとは、ここにいらっしゃる参加者の皆様も当事者です。環境にいいような商品を若い人たちが積極的に買っていただくと。うちのプリウスを買ってくれと言っているわけではないですが(笑) そういったことが世の中を変えていく原動力になると思います。ここに参加されているような若い人がどれだけ意識をもって変えていって、世の中に広めていけるかが重要でないかと。我々くらいの年寄りになると、色々なしがらみとか生活とかがありまして・・・。本当は変えなきゃならないけど、変えにくい面もあって。そういう意味では、京都議定書問題などは、皆様の消費行動・生活パターンに期待するところ大ですので、私からはよろし



くお願いしますということを申し上げておきます。

栗田 私も議定書が発行されるかされないかに関わらず、温暖化問題は会社として一人間として取り組まなければならないと思っています。もし影響をあげると言うのであれば、排出権取引が保険会社の中では注目したい。実際にそういう取引は始まっているのですが、そこにどんな保険ニーズがあるのかは、今現在、当社で検討段階にあります。

あと、具体的に社内の話で言うと、省エネ・省資源。二酸化炭素の排出を押さえるために、紙の有効活用や省エネルギー、無駄な電気を消すとか。そういう運動を地道に今までも行っていました。従来にも増して力を入れなければ、と思っています。

迫 当社では、1970年代より省エネルギーの推進プログラムあります。議定書が発効するか否かに関わらず地道に取り組むべきであると思います。現在、二酸化炭素排出量が増えているのは民生部門と輸送部門ですが、ITソリューションを用いて、例えば、在宅勤務をするとかe-ラーニングをするとか輸送に関わる環境負荷を削減することで貢献できるのではと考えております。個人的には、社員全員が一市民ですので各自のライフスタイルまで変えるような意識改革に貢献できればと考えております。

小林 ありがとうございます。最後に何か質問はありますか。・・・。それでは、最後に学生に対してメッセージ、アドバイス、それから、環境部を一言で言うと何かということをお答えいただければと思います。

環境部を一言で言うと

西堤 皆さんにお願いしたいのは、先ほども言いましたが、自分達で世の中を変えていくと。それくらいの気持ちでやっていただきたいなど。環境はそれでかなり変わってくるのではないかなと。環境部を一言で言いますと、環境部ができた時に、上から言われたのですが、「環境部で社内変革を」と。つまり、日本の会社は縦割り社会ですので、部門や分野毎に壁のようなものが感じられます。環境部は各分野にまたがる項目を横で見なければいけない。それから最近言われておりますCSR。これも、それぞれの分野・部門でやらなければいけないけど、まとめてみる

とやっぱり横串と考えられます。そういう仕事が今まで日本の企業ではなじんでなかったのですが、これから増えてくると思います。あとは、何でもやります、というのが、環境部ですね。

栗田 仮に、就職されて環境部署に配属されなくても、環境は一人ひとりが取り組み、できることはあるんですよ。会社に入ろうが大学生でいようが、どんな場所でも環境問題は、自分一人でもできる問題なので、そういう考えにたってください。必ず企業では環境部署に行かないと、環境の仕事ができないのだとは思わないで下さい、というのが私のメッセージです。一言で言うと、環境部署は、コーディネーターなのかなと思います。社内と社外を結びつける役割があるのかな、と。それから経営部門の一角に当社の場合なってきたような気がします。例えば、人事とか財務とかシステムとか、色々経営に直結する部署があるのですが、その一つに環境が入りつつあります。当社に限らず、よその会社でもそういう傾向にあると思っています。

迫 先ほど一言でいえば、ということで環境のリーダーシップを図ってリスクを削減する話をしましたが、環境に対する取り組みは、幅広い取り組みが必要です。私からのメッセージとしては、「何でだろう」という興味を常に持ち続けて環境問題を考えていただければと思っています。

小林 私も当会を開催するに当たって、「環境就職」とは何かと考えたのですが、環境を何もしていない会社というのはないかもしれませんが、例えばそういうところに行って、自分が発言をして、そこを環境マインドをもった会社に変えてしまう、ということではないかと考えたことがあります。

それでは参加者の皆さんに質問ですが、この話を聞いて、環境部に何年係ってもいいから行ってみたい、と思うか、地味だし興味を失ったかな、この二択でお願いします。じゃあ、行ってみたいという人。

(結構いる)

じゃあ、地味だし・・・の人。

(1人くらい)

それではシンポジウムを終わらせたいと思います。

相談会 カウンセラーリスト

環境省、資源エネルギー庁、農林水産省、廃棄物・リサイクル関連、温暖化、エネルギー、環境ラベル・森林認証・LCA、農林業・食品、環境教育、環境コンサルタント(全般・環境計画・アセスメント・ISO認証)、環境分析、環境NGO・NPO、自然保護、ベンチャー・起業、国際関連、メーカー、情報・出版・広告、商社、流通、金融など、およそ50名

アンケート集計結果 「シンポジウム」

(n=174)

1、本企画は何でお知りになりましたか？

- ・メールリスト 9名(5.2%)
(エコリーグ・JOBWEB、エコ学園祭、GREEN PEACE、所属サークル、AGS-UTSC)
- ・ホームページ 39名(22.4%)
(エコプロダクツ、環境goo、エコリーグ、エコJOB、東京ビッグサイト、Yahooのキーワード検索「環境」「就職」)
- ・イベント 1名(0.6%)
- ・エコプロ広告 50名(28.7%)
- ・知り合いから 64名(36.8%)
- ・その他 11名(6.3%)
(ゼミの先生、チラシ、日経エコロジー、学校の就職ガイダンスで先生に紹介された、大学、学校からの紹介、テレビCM、12chのWBSの番組で、掲示)

2、現在、サービスを受けている就職支援ツール(ウェブサイト、メールリストなど)はありますか？(複数可)

- リクナビ 142名
- 毎日就職ナビ 81名
- 日経就職ナビ 80名
- 学情就職NAVI 22名
- みんなの就職活動日記 16名
- メガジョブ 15名
- エクスジョブ 11名
- アクセス就職ナビ 3名
- Yahoo!求人情報 3名
- コンパス 3名
- 就活ポラリスLEAD 2名
- IBAC Career web 1名
- その他 15名

3、「環境問題に取り組んでいる企業」と聞いて、どこをイメージしますか？

- | | | | | | | | | | | | |
|------------|---------|----------|-------------|-----------|---------|--------|----------|-------|---------|----------|-------|
| トヨタ自動車 81名 | リコー 20名 | キヤノン 13名 | 自動車関連会社 12名 | 損保ジャパン 6名 | 松下電器 6名 | 富士通 6名 | 日本IBM 5名 | 日立 5名 | 東京電力 4名 | 荏原製作所 4名 | ソニー 3 |
|------------|---------|----------|-------------|-----------|---------|--------|----------|-------|---------|----------|-------|

～アンケート内容～

- 1 本企画を何で知ったか
- 2 現在サービスを受けている就職支援ツール(複数可)
- 3 「環境に取り組んでいる企業」と聞いて、どこをイメージするか(複数可)
- 4 印象に残った言葉・話・キーワードは何か(箇条書き)

名 三菱 3名 サントリー 3名 製紙・パルプ 3名 西友 3名 電化製品 3名

4、印象に残った言葉・話・キーワードはありますか？箇条書きで挙げてください。(は、特に多かったもの)

- ・雑学が重要、幅広く興味を持つ、苦手分野があってもダメ、環境部は様々な知識がないと難しい
- ・コミュニケーション能力
- ・社内・社外のコーディネーター、横のつながり
- ・英語は必要
- ・新入社員で環境部に配属されるのは難しい 即戦力が求められると思っていたので、すぐ入るのかと思っていた。
- ・自分が会社を変える、全社的な視点
- ・事務、取りまとめが主な業務
- ・経営に直結
- ・環境による企業改革
- ・将来の利益
- ・若い人で30代
- ・CSR (Corporate Social Responsibility)
- ・稼がない部署、直接利益に繋がる部署ではない
- ・社会、経済、環境の連携が大切
- ・望んでこの部署に来たわけではない
- ・聞いていた通り、すぐに配属になる部署ではないということでしたが、広い知識を必要とし、やりがいのある仕事であることが分かりました。
- ・人脈、色々な人と知り合う
- ・環境部は社内でも知られていない。認知度が低い。
- ・環境は自分でもできる問題。必ずしも環境部門に行く必要はない。どこでも環境の仕事はできる。
- ・文系の学生も環境部にいける。
- ・一人でだって環境問題に取り組むことができる。一人一人が環境問題について考える必要がある。自分達が世の中を変えていく。
- ・大学の勉強はあまり関係がない
- ・確実に「利益にならない」と分かっていたら、環境のためにはなることでも行わない。しかし、絶対に「利益にならない」かどうかなんて分からない。
- ・ISO14001
- ・一芸に秀でろ
- ・環境部の仕事は+ の仕事と捉えられている。
- ・100年先に会社が生き残るためにできること
- ・環境でリーダーシップを取っていく。

アンケート集計結果

「相談会」

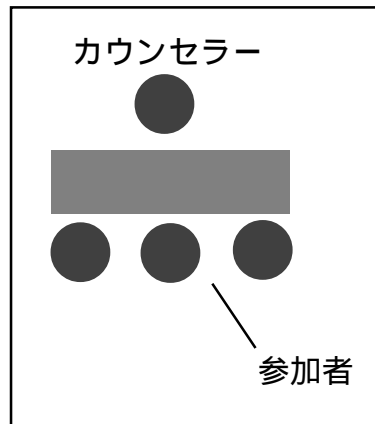
～ アンケート内容 ～

- 1 今回のカウンセラー以外で話を聞いてみたいカテゴリは何ですか
- 2 印象に残ったカウンセラー、またはコトバは何か

環境就職進路相談会の形式

環境に携わる各業界・業種の社会人がカウンセリング形式で、学生の就職や進路上の相談に乗る企画。

およそ4時間を5タームに分けるので(1ターム/45分)、数名のカウンセラーの相談が受けられる。



1. 今回のカウンセラー以外で話を聞いてみたいカテゴリ(食品メーカーなど)はありますか。

・市役所・銀行・NPO・健康食品・研究者・健康をテーマにした消費者アドバイザー・IT・コンサル・地方公務員・新聞社・保険会社・食品メーカー・土壌浄化プラント・自動車メーカー・国際協力関係・石油化学工業・繊維材料・フードサービス・農業・デザイン・旅行・製造・化粧品・造園・家具メーカー・住宅・洗剤メーカー・ベンチャー・環境省技術職

2. 印象に残ったカウンセラーはどなたでしたか? また、印象に残った言葉・話・キーワードは何ですか? 箇条書きで挙げてください。

・大手総合商社(熱意が伝わってきた)
 ・NPO(環境に関係する仕事はその仕事についてなくても出来る。環境活動をしていない企業に行って、そこで環境活動をするように働きかけることも大切)
 ・地方自治体(仕事がとても楽しそうだった)(非常に分かりやすかったです)
 ・コンサルタント(熱く語ってもらい全てが印象に残りました)社会人になってからどう活動するかが重要)新し

い風を組織に吹き込むことが求められる)

- ・起業(一人一人にアドバイスをしてくれたのがよかった)
- ・国家公務員(自分で道を決める)
- ・大手メーカー(英語を勉強しておいた方がいいということ)
- ・財団法人(子どもの言ったことをくみ取って理解して説明する)
- ・政治家(結局は自分の性格にあった仕事を探すのがいい)
- ・コンサルタント(コンサルは常にキャリアを意識している)(生きるために稼ぐのか、稼ぐために生きるのか)
- ・総合研究所(今日の社会、または企業のニーズなど、それぞれに求められる人材像について)
- ・マスコミ(ピュアな好奇心を持ち続けること)
- ・プラントメーカー(業界の素の話が聞けとても有益でした)
- ・分析(分析という仕事や業界について知ることが出来た。)
- ・コンサルタント(「環境コンサルタントのこの仕事为天職だ」と終わりの時間をすぎても生き生きと語る姿が私には輝いて見えました。私もああやって生き生きと仕事がしたいと思います)
- ・プラントメーカー(自分のやってきた専門をしっかり持ってれば、それを活かせる)

その他

- ・スキルよりも気持ちが大切
- ・大学で学ぶことは就職後にはあまり使えないこと
- ・アセスメントとコンサルタントの違いが理解できた
- ・職に就くうえで何をウリにするのかわかった。
- ・やっぱり最後は人ですよ。
- ・技術と社会的ニーズ
- ・今後の就活に役立つ内容で参加してよかった。
- ・リサイクル業の方、廃棄物ビジネスについてよくわかった)

報道採録

～メディアに大きく取り上げていただきました～

中日新聞 12月28日(日)

「環境」への就職志望増える



環境分野の就職希望者が、企業説明会に参加している。

【東京28日】環境分野への就職志望者が、ここ数年で急増している。就職活動中の学生や、転職を志す社会人が、環境分野の企業に注目している。環境分野の企業は、社会貢献性が高く、働きやすい環境が整っていることが、志望者にとって大きな魅力となっている。

環境分野の就職希望者が急増

就職活動中の学生や、転職を志す社会人が、環境分野の企業に注目している。環境分野の企業は、社会貢献性が高く、働きやすい環境が整っていることが、志望者にとって大きな魅力となっている。環境分野の企業は、社会貢献性が高く、働きやすい環境が整っていることが、志望者にとって大きな魅力となっている。

「変える」気持ち持って

実体験を基に助言



環境分野への就職志望者が急増している。就職活動中の学生や、転職を志す社会人が、環境分野の企業に注目している。環境分野の企業は、社会貢献性が高く、働きやすい環境が整っていることが、志望者にとって大きな魅力となっている。環境分野の企業は、社会貢献性が高く、働きやすい環境が整っていることが、志望者にとって大きな魅力となっている。

環境分野の就職希望者が急増している。就職活動中の学生や、転職を志す社会人が、環境分野の企業に注目している。環境分野の企業は、社会貢献性が高く、働きやすい環境が整っていることが、志望者にとって大きな魅力となっている。環境分野の企業は、社会貢献性が高く、働きやすい環境が整っていることが、志望者にとって大きな魅力となっている。

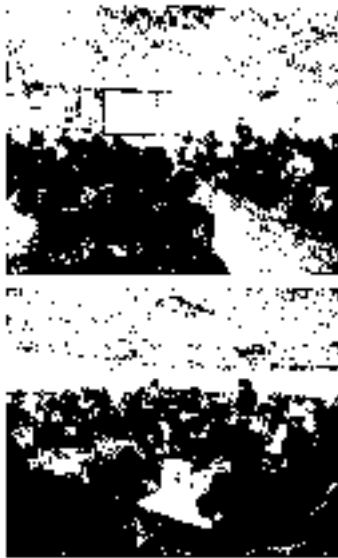
サイトで職業紹介も

環境分野の就職希望者が急増している。就職活動中の学生や、転職を志す社会人が、環境分野の企業に注目している。環境分野の企業は、社会貢献性が高く、働きやすい環境が整っていることが、志望者にとって大きな魅力となっている。環境分野の企業は、社会貢献性が高く、働きやすい環境が整っていることが、志望者にとって大きな魅力となっている。

日経アドレ「就職活動ダッシュ号」 日経ホーム出版社

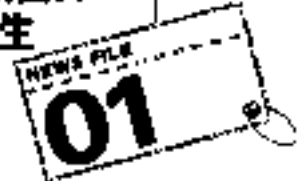
就職活動最前線 NEWS

やりたい仕事に遇り合ひあつてほしい。「こんなはずじゃなかった」という入社後のミスマッチを防ぎたい。そんな思いを込めて、企業がシ、一カツ生えちにおくるさまざまな試みを現場からレポートしよう



日経アドレ主催の「環境」就職・進路相談会。参加者たちは、企業代表と面談し、就職活動の悩みを相談している。会場には、企業代表のブースも設けられている。

エコ・リーグ主催の「環境」就職・進路相談会に環境を仕事にしたい学生300人が参加



環境に配慮した企業と志望する学生が、ビジネス環境を共有し、相互理解を深めた。エコ・リーグ主催の「環境」就職・進路相談会が、10月10日（土）に開催された。当日は、約300人が参加し、企業代表と面談し、就職活動の悩みを相談している。会場には、企業代表のブースも設けられている。

エコ・リーグは、環境問題の解決を目的として、企業と学生が連携し、環境に配慮した企業と志望する学生が、ビジネス環境を共有し、相互理解を深めた。エコ・リーグ主催の「環境」就職・進路相談会が、10月10日（土）に開催された。当日は、約300人が参加し、企業代表と面談し、就職活動の悩みを相談している。会場には、企業代表のブースも設けられている。

エコ・リーグは、環境問題の解決を目的として、企業と学生が連携し、環境に配慮した企業と志望する学生が、ビジネス環境を共有し、相互理解を深めた。エコ・リーグ主催の「環境」就職・進路相談会が、10月10日（土）に開催された。当日は、約300人が参加し、企業代表と面談し、就職活動の悩みを相談している。会場には、企業代表のブースも設けられている。

朝日新聞（朝刊）
平成16年三月一日（月）

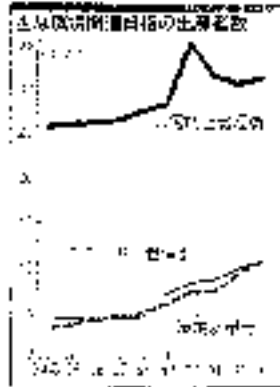
職歴記載「情報」入帳

【東京20日電】厚生労働省は20日、企業に職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」は、職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。

進路相談会で質問続々

【東京20日電】厚生労働省は20日、企業に職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。

「おもしろいところから関心」新卒組 「技術生かしたい」転職組も



求人動向（1月～2月）

【東京20日電】厚生労働省は20日、企業に職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。

【東京20日電】厚生労働省は20日、企業に職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。

【東京20日電】厚生労働省は20日、企業に職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。

【東京20日電】厚生労働省は20日、企業に職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。

【東京20日電】厚生労働省は20日、企業に職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。職歴記載の「情報」を求め、人事管理の効率化を図る。

次回 予告

(予定)

エコプロダクツ2004にて開催予定！！

今年12月に東京ビッグサイトで、環境就職・進路相談会 in エコプロダクツ2004を開催予定。参加者・カウンセラーを募集しています。
詳しくは、エコリーグもしくは環境就職相談会ホームページまで。

www.eco-2000.net
www.geocities.co.jp/Berkeley/1904

STAFF

実行委員長 / エコ・リーグ担当理事	小林 功英 (団体職員)
シンポジウム担当	松原 啓介 (横浜国立大学大学院 2年) 神代 沙紅良 (慶應義塾大学 4年)
カウンセラー担当	井深 麻理 (塾講師) 小清水宏如 (団体職員) 近藤 大介 (会社員)
受付 / 会計	小林 功英 (団体職員)
広報	竹内 寿浩 (慶應義塾大学 4年)
ホームページ	神代 沙紅良 (慶應義塾大学 4年)
報告書作成	小林 功英 (団体職員)
当日運営	佐藤 侑子 (会社員) 片岡 雅子 (慶應義塾大学 2年)

Special Thanks

エコプロダクツ2003事務局ご担当様 (盛田さん)、パネリストの皆様、カウンセラーの皆様、えこみゅにけーしょんスタッフの皆さん、参加者の皆さん

主催団体エコリーグとは

エコリーグは、環境問題について考え、話し合いたい、何かしたい、情報を得たい、等、様々な想いを抱いた人々にとって、探し求めるものを見つけることのできる「場」であることを目指し、活動しています。

環境就職進路相談会 実施報告書

2004年3月4日発行

編集責任者 小林功英

問い合わせ エコリーグ事務局

URL: www.eco-2000.net MAIL: eleague@mx.mesh.ne.jp

本報告書の記事・写真等の無断転載を禁じます。